

2025年5月9日
学校法人 信愛学園
周 船 寺 幼 稚 園
園 長 村上満里子

2024年度（令和6年度）

学校評価（自己評価・関係者評価・外部評価）報告書

2025年2月27日（木）16時から周船寺幼稚園教諭が周船寺幼稚園事務室において、2025年2月28日（金）16時から周船寺第二幼稚園教諭が周船寺第二幼稚園事務室において、別紙「信愛学園自己評価一覧」を元に、2024年度の学校評価の自己評価を実施した。その後、周船寺幼稚園では、3月10日（月）10時より、周船寺幼稚園3階交流室において、保護者会役員3名（藤田さん、田中さん、山田さん）と園長で、学校関係者評価を行った。周船寺第二幼稚園では、3月11日（火）10時より、周船寺第二幼稚園子育て支援室において、保護者会役員（井上さん、久恒さん）2名と園長で、学校関係者評価を行った。また、2月27日（木）10時から信愛学園外部評価（第三者評価）委員・松崎豊委員（弥生幼稚園園長）と笠井元委員（東福岡幼稚園園長）と両幼稚園園長により、外部評価委員会を開催した。外部評価委員会では、両園園長が2024年度の総括において、一年を通して取り組むことが出来た内容と今後の課題を報告し、評価委員からは、以下の評価が示された。

取り組みとして評価すべき点としては、教育の質の向上のために園内外の研修に積極的に参加し、保育の質の向上を図ることができたこと、さらに園生活の様子をアプリ等で配信し保護者との円滑な関係づくりを行うことが出来たことが挙げられた。一方、今後の課題としては、「地域との関わり」について、ここ数年の新型コロナウイルスの影響により、やむを得ない状況ではあったものの、徐々にコロナの影響も少なくなり地域との関わりを進められるようになった。そこで、今後小学校や校区との連携を深め、地域に奉仕する園としての役割を果たしていくと良いとのアドバイスをいただいた。そして、次年度は、地域との連携を課題の一つとして取り組むことを期待するとの意見をいただいた。

次に幼稚園教諭による自己評価について3つの意見が述べられた。

第一に、園の教育理念・教育方針を理解し保育を行うことについては、これまでの取り組みによって教諭間に浸透していることが自己評価においてもみられ、評価すべき点として挙げられた。ただし、当然のことながら勤務年数が短い教諭にとっては、学びの途上にあり、若干自己評価は劣るが、全体の意識としては、園の教育方針を理解し保育する雰囲気は熟成されてきたものと認められた。

第二に、現在の幼稚園は様々なタイプの子どもたちをお預かりする時代であり、特性のある子どもたちも生き生きと園で過ごすことができるように、クラスの担任だけではなく園全体で子どもたちを援助することが必要である。その意味で、日ごろから教諭間のコミュニケーションをより深めながら、受け持つ園児以外の子どもも心にとめながら保育にあたることが求められる。若手の教諭にとっては、受け持つクラスの子どもだけで手一杯の状況にあるものとは思われるが、園全体の保育の質の向上を目指す上でも、園によるチーム保育のあり方を考えていくことが今後の課題となるとの意見をいただいた。

第三に、スマホネイティブといわれる現在の子どもたちの状況を見ても、子どもを取り巻く環境はものすごい勢いで変化している。保育において子ども理解は不可欠であり、その子どもが置かれている社会状況を把握することは、子どもたちを見る上でとても重要である。そこで、日頃からニュースや時事問題に触れ、アンテナを張って子ども理解を深める努力を続けていくことが勧められた。

最後に、上記の評価は、主に自己評価の低い項目について所見を述べているため、評価の基準には、個人差があり、自分自身を厳しく見ている教諭は、当然自己評価が低い傾向にある。しかし、自己評価が低い教諭が劣っているということではない。また、今回取り上げていない項目については、評価が高く積極的に取り組めたということでもある。その点を踏まえての評価であることが説明された。